平成２６年度　委員会行政視察実施報告書

（視察箇所ごとに作成）

委 員 会 名	産業水道委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎　○小坂井二郎　山田英喜　松井幸夫 金沢広美　　安藤友博　　渡辺正博

◎委員長、○副委員長

１　上田市での課題と視察の目的

急遽決定されたＮＨＫ大河ドラマ放送に対する１年前からの受け入れ準備状況、および地元観光政策にどのように活用しているのかを視察することで、上田市でも「真田丸」放送準備や地元経済への最大限の波及効果を目指す施策の参考にしたい。

２　実施概要

実 施 日 時	視 察 先	山口県萩市
平成２６年７月２２日 １４時３０分～１６時３０分	担当部局	商工観光部　大河ドラマ推進室
視察事業名	ＮＨＫ大河ドラマ「花燃ゆ」を生かした観光行政の取り組みについて	
報 告 内 容	１　視察先の概要 吉田松陰を初めとして明治時代の逸材を輩出した維新胎動の地であり、その当時の面影を今に残しつつ、まち全体を「まちじゅう博物館」として観光資源としながら、近世都市遺産を活用して世界遺産登録を目指す人口５.３万人の観光先進都市。 ２　視察先の特徴 大河ドラマの誘致活動はほとんどする事が無く、短期間での NHK からの取材依頼からヒロイン決定までの協力をされ、平成２７年大河ドラマ「花燃ゆ」が決定された。明治時代の町並みを大切に保存しつつ独自の観光政策に積極的に活用する姿勢は歴史の重みと揺るぎない信念を持った地域運営をされている。 萩市役所内での説明の様子 ３　視察事項について 受け入れ準備について	

	大河ドラマが決定しても準備としてはハード面においては大河ドラマ館の開設準備とそのための駐車場の増設、（ともに旧明倫小学校の体育館及び敷地利用）各種案内看板の充実をするのみであり萩市としてはとりたてて新たな準備はしない。 しかしソフト面での対応は充実している。NHK への対応や市民啓発などの部分には大変参考になる点が多い。 ①　受け入れ体制整備 「花燃ゆ」プロジェクト推進協議会を発足。幕末維新ゆかりの観光資源の情報発信および萩市の観光振興・地域経済の活性化に努め近代の扉を開けた幕末・維新の「萩物語」を広げる事を趣旨とし、平成２７年世界文化遺産登録や平成３０年に向けた明治維新１５０年に向けた総合的な取り組みを目指す。 事業期間　　平成２６年1月～平成２８年3月 事業総予算　　約２億円 構成団体　　地元関連及び山口県関係者　総勢３３名 事業内容 ・パビリオン事業　　（大河ドラマ館及び駐車場運営管理） ・受入体制整備事業　（研修会、看板対策、交通対策） ・誘客宣伝事業　　（各種 PR 活動・関連イベント） ・販売促進事業　　（ノベルティ・グッズ、ロゴ、コンテスト） ・大河ドラマ推進プロジェクト　（展示・各種団体連携） ・ロケ支援事業　　（大河ドラマ地元撮影支援） ・地域ワンプロジェクト（まちじゅう博物館・文化遺産活用） 箱モノに投資するより各種セミナーや講演など市民への啓蒙・情宣活動に多くの時間と予算を活用する姿勢は特徴的である。 ②　大河ドラマ館の概略 新たにドラマ館の建設はせず、現在利用していない旧明倫小学校体育館を利用予定。 集客目標　　４０万人　入館料　大人５００円、子ども２００円 展示期間　　平成２７年1月１１日～平成２８年1月１０日 展示内容　イメージボードパネル、出演者紹介パネル、 製作者紹介パネル、あらすじ、ドラマ背景説明、衣装小道具、映像紹介、企画展示（松下村塾セット、記念撮影セット、体験型ゲーム機械、ロケ地紹介等）

③　駐車場対策

大河ドラマ館に隣接した旧明倫小学校隣接地にて駐車場を予定
その他の市内各所の観光拠点はすでに十分な駐車スペースを確保
　料金　　普通　３１０円　大型　１０３０円　市民は無料

④　ＮＨＫとの連携

・萩市を舞台とする偉人の選定から NHK に協力、地元の偉人の情報提供を行った。今回の主人公　杉 文（すぎふみ）は吉田松陰の妹で地元での推薦はあまり強くなく意外な決定に驚いた様です。

・あくまで決定は NHK のプロデューサーが中心となって選定し、その為の幅広い情報提供や現地調査（ここが重要とのこと約２週間）の協力を徹底する事で確固たる信頼関係を構築した。

・現在地元ロケ撮影を要請、１０日間程度で撮影箇所１０カ所で３分の１程度が萩市関連の台本にて進行するとのこと。
NHK プロデューサーを交えた市民交流イベントなどを企画中。

・ロゴや PR などの際のパテント管理や利用ロイヤルティー（3%程度）交渉など NHK エンタープライズとの関係は重要。
萩市として独自の PR ロゴやコピーの承認を受けて事前利用中、NHK の対応は視察時点では正式決定していない。
民間利用には厳しい審査があり萩市としては情報紹介のみにとどめる方針。

・萩市独自の観光政策について

大河ドラマのみの対応でなく総合的な長期ビジョン策定

明治時代の面影を残す萩を大切に継承して PR する基本が明確
　平成１６年　萩まちじゅう博物館構想　開始
　平成２７年　世界遺産登録
　平成３０年　明治維新１５０周年
　　このような取り組みの中で NHK の大河ドラマ放送が急遽決定
　　特別の NHK への働きかけはしていない。

　　山口県の観光政策に便乗するのでなく萩市が独自に計画して確実に実施している。交通アクセスが悪いことに関して県への改善要請はしているが決して言い訳にせず、逆に独自性の維持に活用する前向きな姿勢で対応している。

考　　察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	上田市に活用できる点。 萩市役所前にて 観光都市としての地域全体の考え方や方針の統一に関しては大変参考になる。 古い町並みを如何に残し、その部分を PR することで萩独自の魅力を世界に発信している。 また NHK 大河ドラマ対策に関する様々な対応は非常に参考になる。特にプロデューサーへの対応は重要であることを教えられた。上田市も早急に真田丸の担当プロデューサーへの対応を検討すべきであり、現在は全くしていない部分である。 ロケの地元撮影やロゴや題字、写真などのパテント利用に関してはしっかり打ち合わせをする必要性があることも解った、ただし NHK の対応は基本的に前年度の大河ドラマの放送終了後であるが如何に綿密な信頼関係を構築しながら早期に活動する事が地元関係の内容を盛り込んだストーリーの展開や大河ドラマを活用した地元 PR 活動の充実に繋がることを学んだ。 まとめと感想 １５０年前の町並みを大切に保存し、安易な開発をせずに自分たちの街に絶対の自信を持つ姿勢が全ての市民から感じられた。これは現在でも吉田松陰先生の教えを小学生が全員毎日学ぶことで市民全員に共通した教育が貫かれている事が影響していると感じ、そのような体制を継続している地域姿勢を羨ましく思いました。 観光都市としての決意、そして実践しながら市民それぞれの日常生活を上手く営むバランスの良さは本物の観光都市であり、訪れた人々が強烈な印象と共に再度訪れたいと思わせる雰囲気があった。 上田市も市民全体で本物の地域に自信が持てる街づくりを目指していきたい。

平成２６年度　委員会行政視察実施報告書

（視察箇所ごとに作成）

委 員 会 名	産業水道委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎　○小坂井二郎　山田英喜　松井幸夫 金沢広美　　安藤友博　　渡辺正博

◎委員長、○副委員長

１　上田市での課題と視察の目的

観光地として欠かせない魅力ある食の提供について、上田市では美味だれを推進しているが、同じ焼き鳥を使っての地域活性化に取り組む長門市の姿勢について学ぶ。日本一を名乗ることで強烈な印象を与える発想力と焼き鳥から地域観光振興への展開方法についての取り組みを学ぶ。

２　実施概要

実 施 日 時		視 察 先	山口県長門市
平成２６年７月２３日 １０時１５分～１１時４５分		担当部局	経済観光部　観光課
視察事業名	焼き鳥日本一の取り組みについて		
報 告 内 容	１　視察先の概要 人口３．７万人、景勝地『青海島』があり多くの天然の良港を持つことから捕鯨基地として繁栄、美しい向津具半島の油谷湾は豊かな海の恵みを与え、漁業や観光を中心として全国に誇れるまちを創ることを目標に「チームながと」構想で災害に強く安心して暮らせる活気のある地域振興を目指している。 ２　視察先の特徴 地元では海の幸を生かした仙崎かまぼこが名産として知られていたが市民の人口１万人あたり焼き鳥屋さんの件数が日本一であることが平成１７年６月に議員から		

長門市役所内での説明風景

の指摘で判明し、そこから「焼き鳥日本一の長門市」のキャッチフレーズで新たなブランド化の創出とやきとりを生かした地域振興を図っている。

3　視察事項について

長門やきとりの由来

もともと蒲鉾生産が盛んで、鶏の餌となる魚のアラが安く潤沢に入手できることから養鶏業が盛んになり、養鶏専門の協同組合ができるなど西日本有数のブロイラー生産地である。またブランド鶏「長州どり」「長州赤どり」「長州黒かしわ」などの安全で新鮮な鶏肉が入手できるなど焼き鳥が市民にも深く愛されていた。

長門やきとりの特徴

鶏の各部位、豚の三枚肉などを利用する串焼きスタイルでありガーリックパウダーや七味唐辛子などを振りかけて食べる。食材も定番の長ネギではなくて玉ねぎを使用し、添えられるちぎりキャベツと共に食べられる。また焼き鳥屋さんでありながら地元の新鮮な海産物も一緒に提供されている。

焼き鳥日本一に向けた取り組み

①平成１８年４月　長門やきとり横丁連絡協議会　発足
焼き鳥店　３３店舗、地元JA、焼き鳥応援団（有志）６名
地域振興補助金を２年間活用してスタート、活動方針決定や実際の活動母体となっている。

②平成１８年１２月　全国やきとり連絡協議会への参加
加盟・・・室蘭市・美唄市・福島市・東松山市・今治市
久留米市の７都市が参加している。

③平成１８年度から　焼き鳥の長さ世界一への挑戦
一本の竹串に鶏を刺して焼き鳥にする長さを競う。平成１８年１０月１３ｍ２８ｃｍで世界一、福島県川俣町、会津若松市（焼き鳥戊辰戦争)、和歌山県高川町と争い合計３回の記録更新をして話題となる。現在は休止中。（竹串の限界と過熱競争沈静の為）

④平成２１年１０月　全国やきとリンピック in 長門開催
２日間で８万人を集客。今年８月には二回目の全国大会を開催して成功させる。

焼き鳥を活用した地元振興策

① 毎年８月１０日のやきとりの日に「長門やきとりキャンペーン」開催。地元小学校との連携による鶏関連企業や施設への社会見学会や焼き鳥のプロを派遣して調理実習の実施。

評判のやきとりチップス

② 旅行会社・輸送事業者との連携による旅行商品開発

・焼き鳥２次会プラン　（湯本温泉旅館協同組合共催）
宿泊施設から焼き鳥店迄のタクシー送迎と食事付きプラン
2800 円　飲み物一杯、焼き鳥盛合わせ付き

・焼き鳥列車（JTB、JR 西日本共催）
地元ローカル鉄道を活用して焼き鳥を車内で味わう１泊２日の鉄道旅行。「鉄道オブザイヤー2012」グランプリ受賞

・焼き鳥宿泊プラン（JTB 共催）
温泉宿と焼き鳥の夕食がセットになった宿泊プラン

③新たなお土産開発

長門焼き鳥味のポテトチップス「やきとりチップス」販売
地元企業との連携から更なる商品開発を模索中

③ 情報発信

観光課が運営するブログ「ながとやきとりマップ」やフェイスブックで情報発信、その他民間にて焼き鳥マップやホームページを製作している。食の情報サイト「食べログ」への積極的な情報提供や旅行雑誌への取材協力などを展開中。

考　　察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	上田市に活用できる点。 　まずキャッチフレーズのインパクトの付け方は非常参考になると思います。現状の中から日本一を名乗る為の理由付けを新たな切り口で発掘した考えは素晴らしいと思います。またその後の様々な地域連携を模索しながら実績を構築されている姿勢は美味だれを PR している上田市は見習うべき点だと思います。特に全国やきとり連絡協議会への参加又は協力要請などはすぐに実行すべきものだと思います。 また、しなの鉄道の観光列車「ろくもん」や新たなお土産開発への応用など長門市の取り組みは即、現在上田市が取り組み始めている企画に参考になる事ばかりです。その中で特に人材の育成は大変重要であり若手職員を県の観光課へ出向させて教育し、そこで得た人材を上手く活用して様々な企画を権限を持たせて実現させる部分は今上田が足りない部分ではないでしょうか。 まとめと感想 　長門市の取り組みはまだ 10 年弱であり、地元の特産や特徴を上手く発想を転換して PR する姿勢は規模や歴史に頼らず、やる気があれば短期間で成果が現れることを証明して頂いていると感じました。 このような現在企画・進行中の類似した取り組みを実践する市町村や団体などを参考にすることでより上田らしい素晴らしい成果が期待できると思いました。

平成２６年度　委員会行政視察実施報告書

（視察箇所ごとに作成）

委 員 会 名	産業水道委員会
参 加 委 員	◎松山賢太郎　○小坂井二郎　山田英喜　松井幸夫 金沢広美　　安藤友博　　渡辺正博

◎委員長、○副委員長

１　上田市での課題と視察の目的

地域活性化の重要な部分は如何に地元の中小・零細企業に焦点をあてた政策を実施することであり、産業水道委員会がテーマとする上田市独自の中小企業振興条例制定に向け特に県との連携体制や県条例を基にした上田市の特色を出しつつ有効な振興条例制定の為の推進方法や合意形成過程のさまざまな問題に関しての調査・研究を行う。

２　実施概要

実 施 日 時	視 察 先	山口県山口市
平成２６年7月２４日 ９時～１０時３０分	担当部局	議会事務局　調査担当

視察事業名	山口市ふるさと産業振興条例について
報 告 内 容	１　視察先の概要 山口県のほぼ中央に位置し、県庁所在地でもあり行政・文化・産業のバランスの取れた人口 19.6 万人の中核都市である。昔から教育に力を入れつつ、1360 年頃から京都を模して発達した経緯から史跡も多く残る文化交流拠点でもあり、現在新たに産業交流拠点としての機能を強化する事業を推進中。 ２　視察先の特徴 山口県が制定した「ふるさと産業振興条例」に連動して山口市としての産業振興条例を制定するなど、県との綿密な連携体制と山口市議会の定期的な条例制定に向けた体制づくりなど行政主導の各種振興政策の立案・実施を推進されている。 ３　視察事項について ①　山口市ふるさと産業振興条例の特徴 地域一体となっての地元のものを「ふるさとへの愛情と誇り」を持

って活用・消費する事で、地元以外の消費を呼び込む事を目的としている。第9条からなる条例ではあるが各条項において具体的施策を多く盛り込んでいる。特に市の責務を明確化し、推進する財政上の措置についてまで条文化するなど市民や民間と行政のやるべき分担を解り易く条例化している。平成24年3月21日可決、4月1日より施行された議員提案での条例制定。

② 山口県ふるさと条例との関連及び相違点

県の条例は産業全般に関してが中心であり、山口市は地産地消について重点的に取り上げている。条例制定にあたり参考にしたのは岩国市ふるさと産業条例や宇部市中小企業振興条例など、近隣の市の条例を参考にしたとのことで県への協力依頼や関連性は強くはないが整合性などのすり合わせは実施したとの説明を受けた。

山口市役所での説明風景

③ 条例制定の背景

平成21年に議会基本条例制定し、その中で第11条にて議員の政策提案及び政策立案を義務化したこと、第15条にて政策能力向上の為研修会の実施が定められ、そこから条例制定に関する議員間討議を経て条例制定に向けた提案を毎年絞り込む事を実践している中で今回の条例制定へ繋がる。

④ 議員提案での条例制定の過程

・平成23年1月
条例制定を含めた政策提案の打診が会派代表者会議で提案
・平成23年4月～10月
研究組織の検討、討論テーマ選定、議員間討議、関係執行部との分析、素案検討を実施
・平成23年11月4日
素案の決定。全員協議会で最終討論、議員間の意識統一
・平成23年11月7日～21日
関係団体との意見交換会を9回実施
・平成24年1月13日～2月13日
パブリックコメント募集。 2名 10件の意見あり。
・平成24年1月17日～26日
再度関係団体との意見交換会 3回実施
・平成24年2月1日

	市議会だよりへの素案掲載、パブリックコメントの募集 ・平成 24 年 2 月 13 日～28 日 条例制定における最終調整。再度の全員協議会開催 ・平成 24 年 3 月 7 日 条例案が議長に提出 ・平成 24 年 3 月 16 日 条例修正案が議長に提出 ・平成 24 年 3 月 21 日 平成 24 年度第 2 回定例会にて賛成多数にて可決 ⑤　条例制定後の評価や影響 制定後大きな変化はまだ明確にはわからない。山口市が地元発注を意識的に実施や、地元産材を生かした足湯が各地で設置された事、6 次産業化の動きが徐々にではあるが現れている程度。 条例自体の範囲が広く、内容が大き過ぎたのでもっと絞った条例にした方がより活用されるように感じたとのことでした。
考　　察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	上田市に活用できる点。 山口市の議会が様々な条例制定案を毎年検討しながら議員間討議の活性化と共に市政に対する政策提案を進める姿勢は上田市議会でも実践するべきです。条例制定 2 年間での確実な進行状況は上田市議会でも議会基本条例の制定の経験と共に参考にしながら立案過程での関係者との同意形成を含めた上田市独自の中小企業振興条例制定を上田市議会が率先して実施する必要性を強く感じました。 まとめと感想 長野県中小企業振興条例が今年 3 月に施行され、上田市も独自の同様な条例制定の必要性が議論されています。そんな中、当産業水道委員会も全国の先進事例の研究および視察をしながら研究しており、今回は県条例との連携についてを学ぶ目的でしたが、結果として市町村は地元に即した状況を踏まえて独自に発想して条例を制定する事こそ一番重要であること。ただし県条例とのある程度の整合性は必要ですがそれ以上に、条例制定の過程の慎重さと丁寧な対応が大切であり議会が積極的に立案にかかわる事で広範囲に民意形成が確実にできると感じました。